

＜第2編＞ 重点プロジェクト

第1章 前期計画の取組状況等

第1節 前期計画の主な指標の進捗状況

生産状況

- ◇海面漁業の生産量は、計画を1割上回ったが、生産額はやや下回る状況
- ◇養殖業の生産量は、海面では2割上回り、内水面ではほぼ見通しどおりの状況
- ◇養殖業の生産額は、海面でほぼ見通しどおり、内水面では約3割上回る状況

| 指標 | | 計画値 | | | 現状値 | |
|--------------|--------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------|
| | | H16-20 平均 (基準値;A) | H23-27 平均 (中間年;B) | H28-32 平均 (目標年;C) | H23-25 平均 (現状値) | 中間年 との 比較 |
| 生産量 (トン) | 海面漁業 | 100,876 | 89,000 | 90,000 | 97,492 | 110% |
| | 海面養殖業 | 10,972 | 10,500 | 10,500 | 12,594 | 120% |
| | 内水面養殖業 | 4,403 | 4,500 | 4,700 | 4,281 | 95% |
| 生産額 (百万円) | 海面漁業 | 27,939 | 26,500 | 27,000 | 24,784 | 94% |
| | 海面養殖業 | 8,127 | 8,400 | 8,400 | 8,047 | 96% |
| | 内水面養殖業 | 6,952 | 7,600 | 8,000 | 10,049 | 132% |

生産構造・経営体

- ◇新規就業者数は計画の7割程度
- ◇漁獲物販売金額500万円以上の経営体は、目標の55%に留まった
- ◇生産コストの削減は、燃油高騰の影響で9%の上昇となった

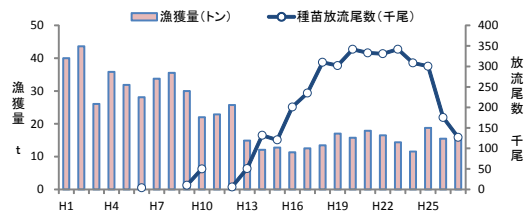
| 指標 | 計画値 | | | 現状値 | |
|--------------|----------------|----------------|----------------|--------------|-----------|
| | H20 (基準値;A) | H25 (中間年;B) | H32 (目標年;C) | H25 (現状値) | 中間年 比較 |
| 就業者数(人) | 3,360 | 2,746 | 2,400 | 2,677 | 97% |
| 経営体数(経営体) | 1,402 | 1,186 | 1,000 | 1,153 | 97% |
| 500万円以上経営体割合 | 14 | 22% | 30% | 12% | 55% |
| 生産コストの削減率(%) | - | -2% | -10% | 9% | - |

第2節 前期計画の主な取組と課題

前期計画における本県水産業の将来像実現のための取組

資源管理

- ◇実践的な資源管理
 - ・マダイなどの主要21魚種について、PDCAサイクルによる資源管理を実施中
 - ・カサゴ資源の回復の兆しが見られるなど、一部に効果が発現
 - ・ヒラメでは小型魚の放流等により資源の有効管理を実施中
 - ◇内水面での資源増殖
 - ・河川の種苗放流や産卵礁造成あるいは石倉などの増殖活動が活発
- [カサゴの漁獲量の推移]



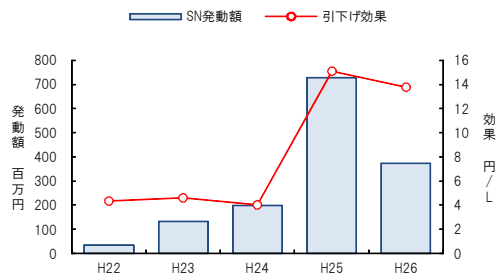
(*)H17よりカサゴ資源回復計画を実施

課題

- ◇実践的な資源管理
 - ・依然、アマダイ等の資源は低水準であり、効果の発現には長い期間が必要
 - ・回遊資源や余剰資源の積極的利用を促進することも必要
 - ◇内水面での資源増殖
 - ・内水面漁業振興法等を踏まえた資源利用に関する関係者の協議促進が必要
- [平成27年資源評価結果]
- ・資源動向が横ばいか増加に転じた魚種
イセエビ(県北部)、カサゴ(県北部、県中南部)、コウイカ類、サバフグ類
 - ・資源動向が減少から増加に転じた魚種
ヒラメ
 - ・資源水準が中位で、資源動向が横ばいの魚種
シイラ
 - ・資源水準が中位で、資源動向が減少の魚種
トビウオ類

経営安定対策

- ◇収入の安定・コストの削減
 - ・収入減少時の共済(積立プラス)への加入が促進
 - ・燃油等高騰時のSN事業への加入が促進
 - ◇収入の増大
 - ・地域及び県域での販売力強化に着手
 - ◇漁業の収益性回復
 - ・高収益漁業モデル漁船の実証が進展
 - ◇漁協系統組織の機能・基盤強化
 - ・経済事業の合理化や連携を推進
- [燃油補填金の発動状況]



(*)H26は第2四半期までの実績

課題

- ◇収入の安定・コストの削減
 - ・経営体維持として有効であるが、漁業の抜本的改善としては限定的であり、経営体の育成強化が必要
 - ◇収入の増大
 - ・ブランド化を進めているがブランド化後の効果が限定的。販売力の強化はこれからの取組
 - ◇漁業の収益性回復
 - ・抜本的な対策として有効であるが、普及が課題であるとともに沿岸漁業での取組が少ない
 - ◇漁協系統組織の機能・基盤強化
 - ・漁協系統団体の原動力を確保するために合理化の加速が課題
- [実証中の高収益漁業モデル漁船]



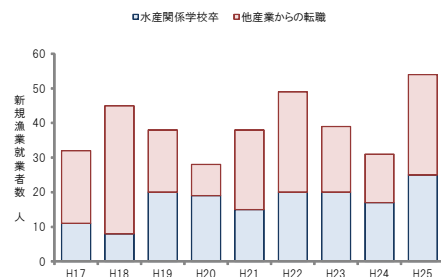
・かつお一本釣り
ダウンサイジング
(137t ⇒ 70t)

漁港担い手

- ◇災害及び施設老朽化対策
 - ・地震・津波対策, 老朽化施設の長寿命化
 - ◇新規就業者の確保・定着
 - ・就労相談等の新規就業を促進
- [漁業就業支援フェア2015(東京)]
- ・開催日; 2015.12.5
 - ・本県ブース来訪者数; 6名

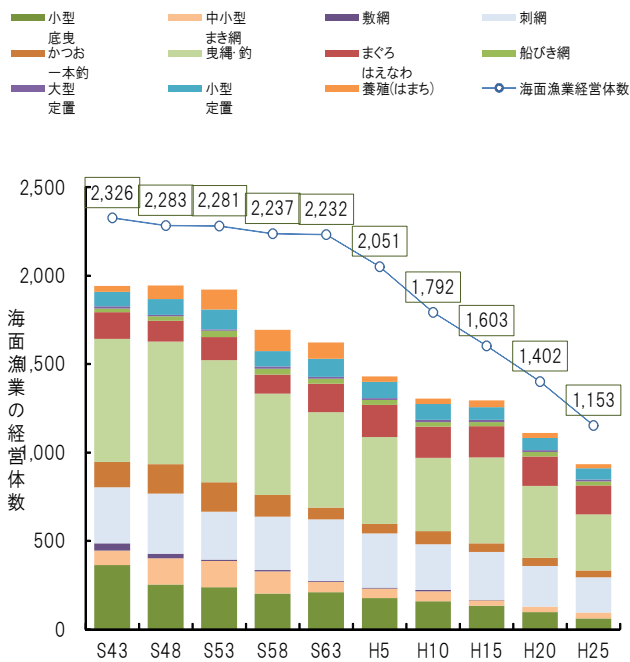
課題

- ◇災害及び施設老朽化対策
 - ・南海トラフ地震への対応が必要
 - ◇新規就業者の確保・定着
 - ・新規就業者が確保されつつも定着が課題
- [新規漁業就業者の状況]

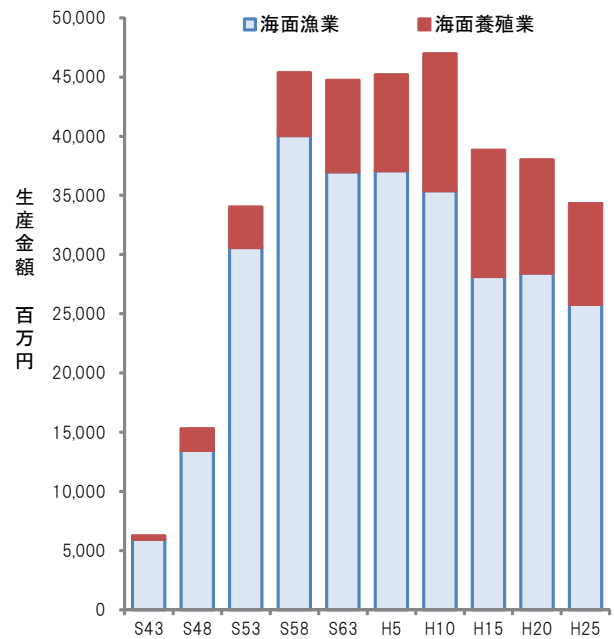


課 題

〔漁業経営体(漁業生産活動の主体)の減少〕



〔漁業生産金額の減少〕



- ◇現在の取組は、一定の成果が得られつつあるものの、効果が限定的かつその発現に長い期間を要するため、漁業経営体及び就業者の減少に歯止めがかからない状況
- ◇地域の重要な産業である漁業が衰退すれば、流通や加工などの水産関連産業の経済活動にも影響し、漁業地域全体の経済が縮小し続ける悪循環に陥る懸念

対 策

基本目標の実現に向けた重点プロジェクト(施策パッケージ)が必要